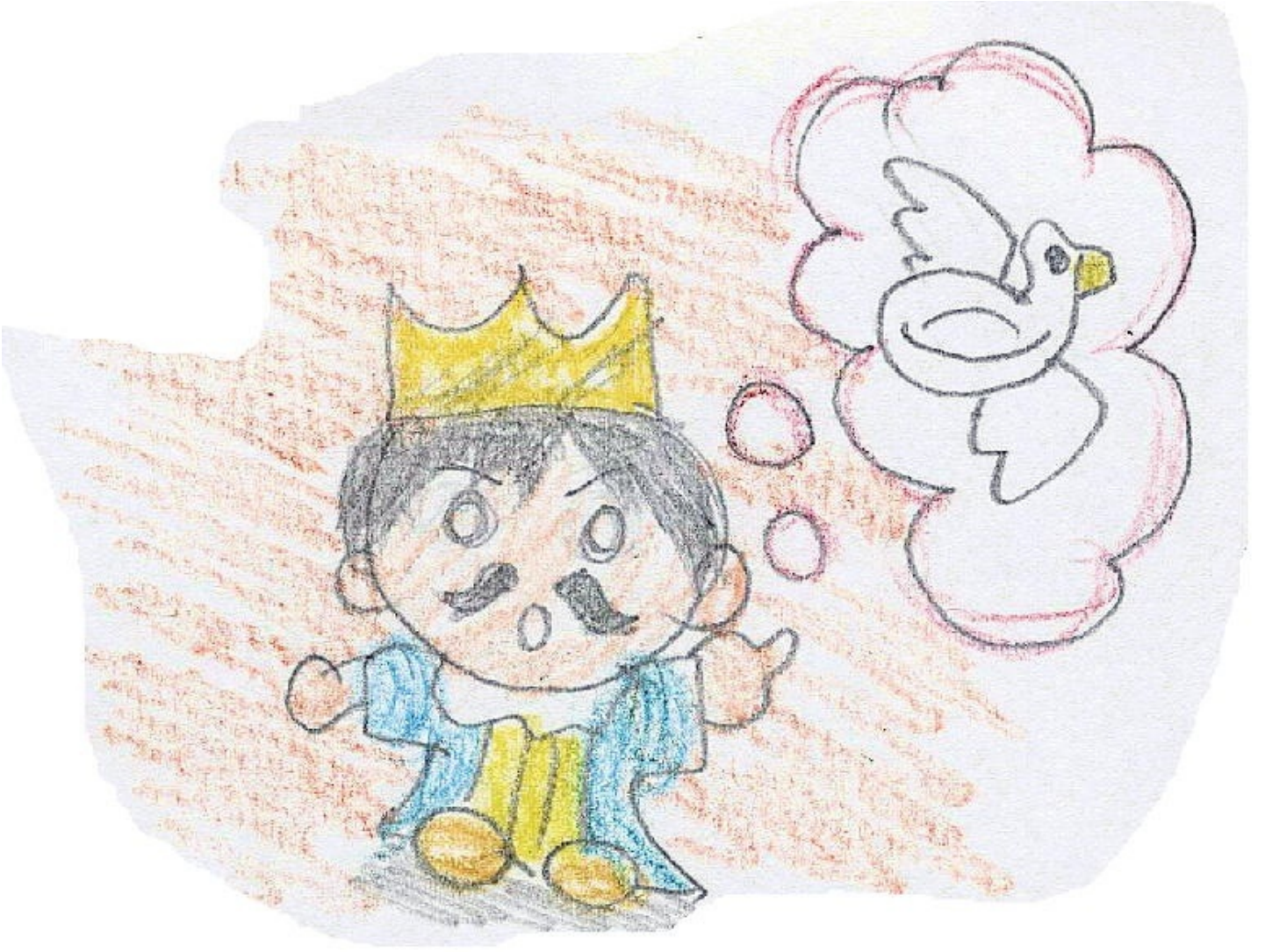
ワカバイ
作、画
こやみ

ワガハイは王様なのだ
食事を持ってまいれ
トイレも飛んでまいれ
動くのが面倒だわい



おい そこの召使い
もっとおいしい飯を作れ
おい そこの家来
金をかせいでまいれ

おい そこの掃除係
床がすべって困るのだ
もっと掃除せい

召使いが言った
「わたくしはいつも
王様の好きなものばかり
作っておりますが
何かご不満がありましょうか」

家来が言った
「ショウセイは毎日毎日
王様の笑顔を見るために
好きなものを買っていただくために
働いておりますが」

掃除係が言った
「床はわたくしが
毎日みがいておりますから
すべるのはしかたない事ですが
掃除しない方がよろしいでしょうか」

貴様らは何を文句たらたらなのだ
ワガハイは王様であるぞ
ひざまづけ 働け

召使いが言った
「王様はなんでそんなに偉そうなんですか
わたくしがいなければそもそも
あなたもいなかったのに」

「そうだそうだ」
家来も掃除係もはやし立てた
「ショウセイがいなければ」
「掃除係のわたくしがいなければ」

王様は いなかったのに

ワガハイは王様であるぞ
何を言っておるのだ
貴様らはクビじゃ
もうどこへでも行くがよい

ワガハイと小さな城
誰もいない小さな城
ワガハイは王様であるぞ
誰か飯を作れ
ワガハイは腹がへったぞ
金はどうした
どこからわいてくるのだ
ホコリが落ちておるぞ
早く掃除せい
掃除はどうした
ワガハイは王様であるぞ

昼飯ももらえない
おこづかいももうない
クモが歩きまわってる
どうして誰もいないのか
当たり前 クビにしたからだな
下着はどこにしまってあるのだ？
風呂水を入れい
ワガハイは風呂に入りたいのだ
誰もいない

ワガハイは王様だが
本当にそうだったのだろうか？
ひとりぼっちで
道端の食べれそうな草を探してる
ひとりぼっちで

水がないぞ
飲み物がなにもないぞ
おい 誰か…

「じゃあその《ワガハイ》を
やめてよ」
曲がり角に 召使い

「わたくしはあなたの母でございます
わたくしがいなければ
あなたもいなかったのに
クビにすると仰せられましたよね」

家来と掃除係が出てきた
「ショウセイは気付いてほしかったのです
お金は水のように
わいてくるものでは決してないと」
「わたくしが掃除をしなかったら
クモどころかここは
お化けやしきになってしまいますよ」

皆が言った
「まずそのかんむりを
下ろしてください」
もっとそばに来てください
あなたは王様ではない
わたしたちの家族
小さな子ども

かんむりを下ろして
道端の草を横に置いて
あやまって
ボクはようやく学んだんだ
ひとりでは 生きられないと
ボクは　ワガハイじゃなく
皆の子どもだと

道端の草を食べてわかった
支えてくれるひとたちがいるから
家族がいるから
ボクは生きられるのだと

なんだか　ワガハイじゃなくなって

少し　ほんの少し

おとなになった気がした

ワガハイ

http://p.booklog.jp/book/108783

著者：雨野　小夜美
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/tinycolor/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/108783

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/108783

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ